

「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略（案）に係る御意見と対応

凡例

- ①：御意見の内容・趣旨を総合戦略（案）に反映させていただきます。
- ②：総合戦略（案）や本市の取組に賛同・期待・協力する，自ら取り組みたい等の御意見であり，いただいた御意見を踏まえて取組を進めてまいります。
- ③：総合戦略（案）に記載の内容・施策の方向性・事業等に含まれる趣旨の御意見であり，いただいた御意見を踏まえて取組を進めてまいります。
- ④：多様な観点からの御意見・御提案として，取組の推進や点検等に際して参考にさせていただきます。

総合戦略（案）全体に関するもの

意見内容	対応
京都市の「こころの創生」は，とても良いことだと思う。	②
京都には住んでいないが，自分の住んでいる市も同じように少子化や人口減少しているのかと考えさせられた。	②
京都市の人口減少や空き家の増加は良く耳にするので，実際に市と市民が協力して現状改善に取り組もうとするのは素晴らしいと思う。	②
国や関西広域等の施策を上手く活用できる点を明示した上で，京都として重点的に身銭を切って取組む内容を示してほしい。	④
手伝いたい。	②
ますます京都がすばらしい街となるよう協力したい。	②
伝統ある京都の特質を理解して，その良さを「まち・ひと・しごと・こころ」のそれぞれにどのように取り組むかが大事。	③
京都は歴史都市。その中で子育てが行われ「人」としての歴史も積み重ねてきた。この伝統や文化，子育てを人口が減ろうが人がいる限り続けられるまちであってほしい。	②
京都を日本の中心にしたプログラムの構成が今後の課題だと思う。	③
住みやすく，子育てしやすく，安全な京都にしていきたい。	③
国の財政が破綻状況になりつつある現状を地方としても認識し，京都市の財政事情を的確に判断して総合戦略を策定する	④
京都市が生き残ることができる選択肢を明確にする。（キーワードは，観光，地元産業，大学生）	③
総花的な案に思えるので，もう少し，的を絞るべきではないか。	④
転出超過でも自然減に追いつかないという事は，子どもを産む世代が今でも転出し，学生や子育て終了世代の転入が多いという事ではないのか。	③
定期的に市民向けにアンケートを行って，このような戦略があるということを広く知ってもらうことが必要である。	④
これからもずっと京都に住んでいたいと思うので，京都を良くしていこうという施策が考えられていることはうれしい。	②
人口減少等に，早期に対策を施そうとするのは良いことだと思うし，市民の参画は重要である。	②
京都ならではの「こころの創生」を重視するという基本理念に感銘を受けた。	②
市内のどこでも活気があるまちであってほしい。そのため，人口減少に歯止めをかける取組を考えておられるのはすばらしい。	②

「地方創生」という言葉には、上から目線の印象があり、その地に愛着を持って暮らしている人にとって失礼な考え方と思っていたが、京都市の戦略では、一人一人に目を向けて進めようとしているので、好感を持たれた。	②
人口減少の現状に危機感を感じた。	②
人口減少が、思っていた以上に進んでいて驚いた。	②
京都市では、人口減少に対する取組をされているが、もっと私たち市民も人口減少についての現状を知り、行動をしていかなければならない。	②
京都市が取り組まれている事業に、何か支援・協力できるのであれば参加したい。	②
府下他市町村とも一緒になって取り組めるものがあつたらよいと思う。	③
「京都にしかないものを大切にすることが重要。」	②
京都市に住んでいる人ほど「京都にしかないもの」に気付かないので、他府県、市外の人意見も聞くことが大切。	①
人口減少が進めば、京都市の税収も減少することになる。移住支援や子育て支援等の直接的な施策も大切だが、その財源が目減りすることも踏まえ、市役所の業務をもっと効率化することも考えなければならぬのではないか。	④
必要不可欠なものから創生してもらいたい。	③
人口減少社会克服のためには、京都の魅力をもっと高める努力を続けることが重要。	③
地方創生を進めるには、市民もしっかりと意識を持って取り組んでいかなければならない。	②
京都ならではの地方創生とするうえで、大学や宗教というのは重要な要素であるので、しっかりと連携する必要がある。	③
ユニバーサルデザインに関するチーム京都の立ち上げ。参画したい。	②
大阪との連携はどのように考えているのか。	④
人口減少に問題があるといわれているが、どのような悪影響があるのか。逆に良い点もあるのではないのか。	①
一人一人の熱意をどのように集めるのか。ホームページ等のインターネットはアクセスしやすく、改善して公表してもらいたい。	①
大学や仏教界などどのように連携をしていくのか。	④
市外からの転入者を、今後も維持していくということは、京都市の一人勝ちになるのではないのか。	③
人口減少の克服に向け、各自自治体が行っているのは自然増よりも社会増であり、他地域からの人口を奪うこと。根本的には、国が人口増のプランを立てなければならぬ。そうすると、地方自治体がすべきことは何なのか。	④
人口減少は納税者の減少。その点も踏まえて考えてほしい。	③
一極集中がなぜいけないのか、わかりやすく説明する必要があるのではないのか。	③
人口減少に歯止めをかけなければ、日本の将来がなくなる。	②
地域を活性化したり、再生したりするよりも、地域を切り捨てたり、優先順位を付けて取り組むほうがよいのではないのか。	④
人口減少を食い止める施策は何か？適正な日本の人口はどれくらいなのか。	④
人口の増加や、市域が北部に広がったこと、道路網の整備など、急激な変化に対応し、課題も網羅された戦略案であり、市や地域の皆さんに感謝する。	②
「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略を策定し、人口減少の克服に挑戦することは、大変意義深いことだと思う。	②
一つひとつの事業はとてもいいことに感じるが、実際に住んでいる市民には、広報が行き届いていないように感じる。	①
スマホ対応のHPや冊子など、その媒体を利用するだろうターゲットに合ったPRをする必要がある。	①
総合戦略案は魅力的なものだと思う。	②
50年、100年先のこととなると、考えることを先延ばしにしてしまいがちだが、今回の総合戦略案を読んで、大変身近な問題だと思う事が出来た。	②
内容については、非現実的に思えるものもあるが、まずは一歩ずつ、実践することが必要だと強く感じた。	②

仕事、結婚、出産、介護に対する情報は、当事者以外に知られていない。そういった情報発信が広まれば良い。	①
たくさんの方の施策が掲げられているが、これを市民に知ってもらえることが大切。チラシやSNSなどもあるが、若い世代には届きにくい。エンターテインメント性を持たせて認知してもらおうなど、わかりやすい情報発信をお願いする。	①
共感できる事業も多く、非常に期待している。	②
広範囲にわたる目標と取組となっているので、焦点がぼやけている。5つの基本目標をもう少し具体的ににしても良いのではないか。具体的な目標に対して、取組提案の募集をしても良かったのではないか。多くの事業が掲載されているが、これを実現することで目標が達成されるのかは疑問が残る。実現のために、何をすべきかを早急に決めて動かないといけない。	④
「こころの創生」を重視することは良いこと	②
自分の住んでいる町について、日々、創生の考えを巡らせているが、「こころの創生」の話は全く新しい視点で大変参考になった。	②
京都はこころの創生を一番メインにしていると感じた。	③
「こころの創生」がある分、総合戦略の冒頭が人口減少社会に対する対策っぽく感じてしまうのが、少し残念を感じる。	④
もっと色々なことを学び、協力できることがあればという気持ちになった。	②
何かできることはないかと考えるきっかけにできそう。	②
京都から日本全体の地方創生なることを応援する。	②
主要都市から地方都市への波及ではなく、逆の発想で考えるのはどうか。	④
人口減少は必然であり、克服するのではなく、いかに対応するかである。	③
地域ごとの条件の違いで、一律に人口減少するわけでもないもので、高齢化と併せて、シビアなデータ解析、予測、マネジメントが必要である。	④
人口の減少局面に当たってはパラダイムシフトが必要である。	③
マクロも大事だが、ミクロの分析も大事。	④
理想はわかるが、もう少し具体例を挙げて説明しなければならない。	④
京都の発信は、行政だけでなく、大学等との連携を行う中で進めていくことが必要。	③
「こころの創生」を加えている意味が理解できた。	②
安心して暮らせる京都を住民とともにつくっていけば、人口減少社会に対応できるモデルとなると思う。	②
昔のお手本の殻を抜け、新しい創生をしてほしい。	②
自分でできる地方創生を考えたい。	②
京都の魅力を再発見できた。東京、横浜になくて、関西にあるものを東京に広めていけばいいと思う。	②
京都の持ち味、財産、課題をわかりやすく知ることができた。	②
微力ながら、京都市民として、協力していきたい。	②
京都をアピールする手段として、サンガを活用してはどうか。	④
観光でにぎわっているイメージがあったが、一年間でこれだけの人口が減少しているのに驚いた。京都市の人口減少の状況を市民はあまり知らないかもしれないし、知っていてもあまり重く受け止めていないように思う。	①
人口減少の問題や総合戦略そのものについても、市民一人一人に届くようにもっと発信して欲しい。	①
地方創生担当大臣もでき、どのようになるのかと思っていたが、京都市では、大変有意義な戦略ができおり、嬉しく思う。	②
たくさんの方が山積みであるが、市長以下の努力に期待する。	②
地方創生を話題にして、考えていきたい。	②
自分ごととして考えられず、なかなか興味を持ってない。	④
全国に先駆けて作成されているのは素晴らしいと思う。	②
既存の事業を羅列した感があり、地方創生を用いた、事象の再アピールのように感じる。	④
地方創生を目的とした新規事業を重点的に紹介したほうが良いのではないか。	③
興味のない市民を「読む気にさせる」資料にしないといけない。市民を巻き込んで施策を展開するのであれば、市民に興味を持たせる視点があっても良いと思う。	④

「一地方の創生」ではなく、京都創生モデルとして、発信できるものであってほしい。	③
「まち・ひと・しごとの創生」に加えた「こころの創生」に賛同する。	②
総合戦略の基本目標ごとに具体的な施策が提示されていて、共感できる。	②
何ができるのかを考えたい。	②
市民一人一人、地域・町内、京都市がそれぞれの役割で、PDCA サイクル、5W2Hの行動を実践し、確認、検証をしていく必要がある。	③
京都市には、京都府や滋賀県をはじめ周辺の自治体とも連携して、推進してもらいたい。	③
京都の特性を生かした、京都ならではの戦略であると感じる。	②
基本理念の核に「こころの創生」を置き、「人の数」の追求のみならず、「笑顔の数」の追求を明確にしている点は特筆すべきものである。	②
人口減少対応・東京一極集中是正を表面的に捉えた政策とは一線を画しており、京都市にしかできない地方創生・京都モデルであると感じる。	②
現状のリーディングプロジェクトについて、まだ企画段階であることを考慮すれば、過不足なく具体性のある事業が選定されていると思う。	②
他の自治体に先駆けて取り組んできた矜持として、人口減少問題そのものや地方創生・京都モデルに関する広報を、より積極的に行っていただければよかったと思う。	①
「経済効果」や「集客数」のみを成果指標に設定すると、「こころの創生」の意味や価値観が損なわれ、いずれ忘却されるのではないかと憂慮する。	④
「こころの豊かさ」を客観的に測る指標(例えば、国民総幸福量など)をKGI(重要目標達成指標)として設定し、PDCA サイクルにもとづく戦略とするべきである。	④
総合戦略全体としてのKGIを明確にし、それを実現するための個別の目標設定として、各事業にKPIを設定し、PDCA サイクルを回すのが良い。	④
チーム京都での取組を念頭に、多様なステークホルダーの有機的、機動的な参画ができる事業モデルとし、行政が俯瞰的にコーディネートする仕組みが必要である。	③
全国の地方創生の牽引役として、国・府・他市町村との連携を想定した事業をするに当たっての枠組みを予め作っていくのがよい。	③
シンボリックな事業は、PRの視点も加味し、理念を象徴的に具現化するような革新性、創造性を持った事業を選ぶ必要がある。	④
事業の実施に当たって必要となる資金の調達については、国の補助金の活用のみならず、民間融資やクラウドファンディングなど多様な可能性を考慮しておく必要がある。	④
京都府最大の都市である京都市の発展は、府の発展に大きく関係しているため、京都市の戦略は府下全体の市町村を牽引するものでなければならないと思う。	③
「人の数の追求ではなく、一人一人が安心して生き、暮らせる社会を目指す」、「全国の自治体と連携する」などが記載されており、市長がその様な考えを持っておられることを心強く思う。	②
基本理念について、職員一人一人が意識を持ち、市民一人一人にも「自分ごと」として、認識していただきたい。	③
人口ビジョンについて、高い目標を立てて取り組むことは重要であるが、推計よりも大幅な人口減が見込まれた時点で、潔い推計・戦略の見直し等、今回策定する戦略に固執することなく、臨機応変な対応を取ってもらいたい。	③
関西の発展、日本のモデルとなる戦略に期待している。	②
この戦略を市内はもちろん、市外、全国へしっかりとPRすることが必要である。	①
基本目標が具体性がなく、一言でわかるようにしてほしい。	④
世界中でも「京都でぜひ子育てをしたい」と思える街、京都で育ったことが誇りに思える街になったらいいと思う。	②
この戦略が、子どもたちや高齢者が安心して暮らせるまちづくりに役立てばいいと思う。	②
京都は多くの外国人が訪れるので、京都を愛する外国人の意見も採り入れるシステムができればいいと思う。(特に町並保全、子育て、教育、仕事と生活のバランスなど)	④
5つの基本目標に力を入れて取り組んでもらいたい。	②
総合戦略(案)概要版の「市民等」について、具体的に明示するべきである。	④
歴史や伝統は京都だけの専売特許ではなく、全国の地域に存在する。東京圏に対抗して京都中心の「こころの創生」の中核を担う表現は、「地方創生」の本来の理念に反するものではないか。	④

「市民等と行政が共に・・・」と記載があるが、どの部分が行政主体的責務で、どの部分が市民等が協力すべきなのかを記載してほしい。	④
冊子 P23「幸福」・「安心」の実感度の測り方について、ある程度の導入時期の目安を示すべき。	④
机上の空論ではなく、コンサルタントのアイデア押し付けではない、まち・ひと・しごとを創生してほしい。	③
昔から住んでいる京都人、京都に移り住む人にとって良いところも悪いところもさらけ出した魅力ある取組になることを期待する。	②
「京都モデル」は全国の自治体に対する先進事例たることを目標としており、大変意義深い。	②
国の総合戦略では、各事業別に KPI を設定している。市の戦略(案)でもリーディング事業の KPI の公表を検討してもらいたい。	③
「京町家の保全・活用の推進」「空き店舗流通促進事業」「総合的な空き家対策」などは同一カテゴリーで統合可能な事業と感じるが、利用者目線に立った場合、施策はワンストップである方が利用しやすいかと思うので、関連ある複数の事業について、ワンストップで利用できる仕組みとするのが良い。	④
リーディング事業ごとに、参加・支援する企業・団体を公募し、KPI の設定や施策の実行部分において民間のノウハウ・実行力を活用することを提言する。例えば、企業支援においては、市内に店舗を構える金融機関は全てその対象となり得るわけであり、金融機関側も連携し、京都市が掲げる目標の達成に本業として取組むことで、KPI 達成が加速すると考える。	④
地方創生の取組において、今後、「自治体間連携」が重要な要件となるので、総合戦略案には一部に記載があるものの、わかりやすさの点で改善の余地があるように感じたので、今後、具体的な取組案や事業が示されることを願います。	④
地方創生においては自治体間の連携に限らず、産官学金労言の全てが連携し、知見を結集する必要がある。地域金融機関も一致協力し、京都市の課題克服に向け、行動したい。	②

市民等取組提案に関するもの

意見内容	対応
お宝バンクの一覧をみると、企業との連携が想定されるものが多くある。せつかくならば、学生のインターンとからめて、学生が企業と共同で地域を盛り上げる企画をすればよいと思う	④
リーディング事業に選ぶ市民等提案については、ばらばらな分野から成功しそうなものを選ぶのではなく、少数の分野に特化して事業を実施していくべきだと思う。	④
お宝バンクの一覧をみると、単発的になりそうなものが多いと感じたので、継続したものにも出来るよう改善する必要がある。	④
取組提案については、大学の授業の一環として、提案を考えてもらえば、学生目線の発想がより多く集まるのではないと思う。	①
お宝バンクの登録提案について、提案者が、匿名となっているのは不信感を感じる。	④
「まち・ひと・しごと・こころ」とジャンル分けせず、オール京都でやっていくことは、参加もしやすい。	②
企業や大学、更には個人の方々も提案をされている姿勢は素晴らしい。	②
「住みやすいまち京都」を実現するために、行政と地域住民が力を合わせるのはとてもいいことだと思う。	②
助成金などが無いにもかかわらず、137 件もの提案があったのは、地域の人の、地域に対する関心の高さの表れだと思う。	②
提案者同士の交流会などを催し、意見交換を行っていけば、いい刺激になるのではないかな。	④
市民等の提案が 137 件もあったことには驚かされた。	②
お宝バンク登録提案については、すでに実施、実績のあるものもあり、期待できるように思うが、提案内容が特定されることで、臨機応変に対応しにくいのではないかな。そこで、取組内容を限定せず、広く登録企業を募り、登下校時の見守りや、クリーンキャンペーンの参加など、業務に支障のない範囲での協力要請をすることができないかな。	④
市民等の提案が採用されているのはうれしく思う。	②
お宝バンクの提案者の交流会があれば、参加したい。	②
将来の人口展望を実現するうえで不可欠な民間の参画を促すために、提案募集を行い、戦略に組み込んでいる点などは、わかりやすく、意欲のわくスキームであると感じる。	②
障害のある人も「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」に主体的に参画できる取組を検討すべき。	③

「お宝バンク」登録提案の一覧に「子供の声よ柵田に響け！～宕陰地域活性化アクションプラン推進事業～」を載せてもらいたい。	②
色々な提案があり、すごいなと思った。	②
色々な意欲的な提案があり、感心した。中でも、介護タクシーなど福祉の提案に興味を持った。	②
たくさんの提案を考えていただき、ありがとうございます。	②
市民等の取組提案の中に宕陰活性化実行委員会が取組している内容を入れてほしい。(宕陰竹灯籠や宕陰ハロウィン祭、宕陰ファンクラブ会員募集事業など)	②
基本目標⑤施策4の中に、「にほんの里100選」に選ばれた「柵田の里宕陰」の地域振興のことも書いてほしい。	②
大きな総合戦略も重要であるが、小さな集落の計画も取り入れたものになるようにしてもらいたい。	④
北区柵野学区では、10カ年計画を平成25年に策定し、毎年見直し、実践している。「ふるさと柵野・まちづくりビジョンの推進(10カ年計画)」として、「京都創生・お宝バンク」に追加いただきたい。	②
京都市街地最北地域の北区柵野の自然を守り育て、研究機関の増設、文化機関の配置を行い「自然・文化・教育ゾーン」として開発する。現状では基本方向が定まらず、乱開発が進行する。基本目標⑤施策4の中に、北区柵野の「自然・文化・教育ゾーン」としての開発を組み入れていただきたい。併せて、お宝バンクにも入れていただきたい。	②

結婚・出産・子育てに関するもの

意見内容	対応
現在の家庭環境(住宅事情)では、第1子が生まれると第2子、3子をつくる環境に恵まれない事も原因としてあると思う。出産前の支援・応援を行政に抜本的対策を期待するところである。	③
保育所をただ整備するだけでなく、幼稚園に通っている子どもも夏休みは入れるようにしてほしい。	④
出産や幼少期の子育て支援に力を入れることだけでなく、その先の高校や大学進学支援も必要ではないか。	④
人口減少を止めるには、育児制度の充実が一番効果があると思うので、制度的に住みやすいまちづくりをしてもらいたい。	③
子育て支援等の施策はとても良いこと。	②
子育て支援等の施策を市外、府外の人にアピールしていく方法を考える必要がある。	①
一人の女性として、結婚などに関して興味がわいた。中小企業共同の託児所など、結婚しても安心などということがしっかりわかっていると、婚期も早まっていくのではないか。	②
中小企業共同の保育所設置は、実現できそうでとても良い案だと思う。	②
子供達がいっつも自由に遊べる場所を増やして下さい。(野球、サッカーなど)	③
子どもを真ん中に置いて、地域づくり、まちづくりを行ってほしい。	③
我が子を良くするには、地域、友達を良くすればいいと思う。自分の子だけを見て、他の子を見ない親を取り込めるまちづくりを希望する。	③
保育園だけでなく、児童館、病児施設など、共働きでも子育てしやすい環境づくりをお願いしたい。	③
生きていくための基本である「食」の大切さを乳幼児の時や出産前から保護者に食育指導	③
婚活も公の機関なら安心できる。農業や商店の方などの出会いの場に。	②
自分の子だけでなく、地域の子どもの親となっていく必要がある。	③
西京区の活性化策として、御所南小学校のような魅力ある小中一貫校、小中高一貫校ができれば、京都で子育てをしたいと思う親子が集まってくるのではないか。	④
人口減少を食い止めるため、託児所を整備して働きやすくする。その中で、大学生をバイトとして雇い、子育ての経験を積ませる。	④
私自身、子どもが生まれたことを契機に、京都を離れた。市内で、子育てのしやすい家を探すとすると、経済的に難しい。必然的に子育て世代は京都市の近隣に転出してしまう。	③
婚活の充実、記載のとおり取り組んでいくべき。	②
保育施策の充実、記載のとおり取り組んでいくべき。	②
建築規制や高さ規制を見直し、自然増が期待できる子育て世代の定住を図る施策が必要である。	④
京都市民や京都市内で働く人限定の婚活ではなく、京都市に住みたい男性と女性の京都市民(または、その逆)などの婚活をすれば、移住、人口増加につながるのではないか。また、将来、京都市に住んでもらえるなら特典を用意するのもひとつではないか。	④

学童保育の時間延長をしてもらいたい。	④
病児保育の指定施設をもっと増やしてほしい。	③
全市立中学校で全員給食制を導入してもらいたい。	④
小児科の休日診療所を充実して欲しい。	④
子ども医療費を充実してほしい。	③
子どもを安心して遊ばせられる施設を充実して欲しい。	③
待機児童については、良くなったと思う。保育園も拡充され、現在住んでいる地域では新しい乳児園ができ、とても助かっている。	②
子ども医療費支給制度の申請手続きを簡素化して欲しい。	④
子ども医療費支給制度を充実して欲しい。	③
放課後に、こどもが安心して過ごせる場所を確保して欲しい。	③
英語教育が遅れている、不足していると思う。	③
子育てについて、父親側への情報提供やサポートが不足している。	①
有休取得、残業減少など、男性の育児参加への企業側の理解も十分でない。	③
子どもがのびのびと安全に遊べる公園づくりを進めてほしい。	①
子育て支援を充実して欲しい。	③
新婚家庭への援助	③
企業と京都市が連携し、小学生が将来像を描く施設(青少年科学センターの充実化など)を設けてはどうか。	④
ワークライフバランスについては、個人の問題ではなく、社会全体の問題として捉えなければならない。そのためにも、就労の仕組みの再構築や意識改革を促す広報を進めていただきたい。	③
育児について、お金がかかったり、育児休暇後に復帰しづらいなどの課題がある。その支援があったらいいと思う。	③
少子化対策が重要なのだろうが、女性向けの施策が多く、男性への施策が少なく感じる。2人目出産には、1人目の出産時に男性の協力があつたかで、大きく影響されると思うので、男性に対する施策も充実させるべき。	③
子どもが広々と遊べる場が少ないと思う。	③
空き家を利用した遊び場や児童館のような場所が増えれば、親同士のコミュニケーションの場にもなるのではないか。	③
京都市に子育て世代が多く転入してもらうには、京都市内に交通インフラも整ったニュータウンがあればいい。	③
人口減少の原因の一つに女性の高学歴化があるのではないか。	③
子育てにお金がかかりすぎるのが問題である。	④
京都の中心部で住んで、子育てを考えているが、経済的に困難。女性が働くことを前提に、安心して子どもを産める仕組みがあつたらと思う。	③
子育ては、お金よりも時間の方が切実な問題である。大学在学中にも子どもを産みやすい環境を作ってはどうか。	①
男性の育児休暇を拡充すれば、子どもを産みやすく、育てやすい社会が実現するのではないか。	③
子育てを終えた方にも、参加してもらう必要がある。	③
学ぶ機会を得られない子どもや、その親の支援など子どもの貧困について、京都市は不十分なのではないか。	①
都市化や人口密集により、個人レベルでストレスがかかり、不妊等の問題が起こっているようにも思える。人を呼び込む中で、この点をどのように解決するのか。	④
出産後も働きたいと思っても、保育園などの環境が整っていなかったり、職場での理解が得られない状況があるのではないか。	③
晩婚化により、育児期に老親の介護が重なるダブルケアとなり、希望どおりの子を産めなくなる。特別養護老人ホームの待機もゼロにしていきたい。	④
保育園の待機児童ゼロはすばらしい。	②

待機児童数ゼロについて、今の算出方法に疑問を感じる。待機児童数の算出法を見直し、そのうえで、真の待機児童ゼロにならないといけない。	④
家庭での家事・子育て・仕事・地域活動などで活躍する女性の体験談の情報発信とあるが、男性でも祖父母でも良いのではないかな。	①
男性と女性という言葉をどのように入れ替えても社会的役割に誤解がないようになるのが男女共同参画だと思う。	①
活躍する女性の情報は、女性に対して頑張らなければならないというプレッシャーにならないかな。	①
「家庭での家事・子育て・仕事・地域活動などで活躍する女性の体験談の情報発信」では、これまで女性が行ってきた仕事を、男性が代わって行いくという雰囲気を変えることにはつながらないのではないかな。	①
母親へのフォローを強化するのはもちろん必要である。	③
母親をフォローする立場の人をフォローする体制も必要である。	③
現在の京都市で、子どもを育てやすいとはあまり感じる事ができない。京都に住んでいる者としては残念なので、今回の取組で改善されることを願う。	③
低所得や一人親で子育てをしている人への支援。	①
事業所内保育所は、共感できるので、非常に期待している。	②
京都市は子育てするには不便。京都で子育てするには、ある程度の地盤や収入が必要。それがなければ滋賀へ移ってしまう。	④
なぜ少子化になっているのかを考え、改善しなければ、安心して結婚し、子どもを産み育てることができなくなる。その前兆が、今の状態ではないかな。	③
教育こそが万事の基本。社会人としての義務を学んでこそ、家族、地域、社会が存在する	③
「負担ばかり増える社会」を危惧して、知識ある若者は、子どもを産むことをためらっているのではないかな。	④
出生率が、全国と比べ、ここまで低いとは知らなかった。結婚願望も子どもを授かりたいと願う人も多いのであれば、バックアップのために婚活等のイベントを実施してはどうか。	③
女性が子どもを産んでも働きやすい場所を設けるということは必要である。	③
男性がストレスをためないような環境が必要なのではないかな。	③
男性の気持ちにゆとりができれば、結婚、出生率が向上するのではないかな。	③
希望出生率は、どのような数値なのか。時代の変化とともに、結婚、出産に関する人々の選択、ニーズが多岐にわたる以上、押しつけてない施策が、どれほど有効であるか疑問である。	④
京都は好きなので住みたいが、土地が高いので、結婚を機に他府県に住もうと思っている。	③
子育てしながら仕事をするのは大変なので、仕事を辞めるか、産むとしても2人が限界と思う。	③
子どもを預ける施設がなかなかなく、どこも人手不足である。人手が足りなくてもやっていけるような、託児施設があればいい。	④
どの企業にも、子育てしながら安心できる態勢が必要。	③
中小企業が多く、賃金上昇が難しいのであれば、ワークライフバランスを前面に押し出し、賃金は高くないが、その分労働時間が短いといった方向に転換したら良いと思う。	④
女性の社会進出が進み、生き方の選択肢が増えたことで、結婚しない女性も増えたのだと思う。	④
男性も、家庭に入りたい、外で仕事したいなど、生き方を選べるべきだと思う。	①
少子化を減らすことが必要だと思う。	②
どのような家庭状況でも、自由に進路選択をし、希望の学校へ行ける支援が必要	①
小中学生の宿題を見るなど、忙しい親に代わって、学習指導をするような環境づくり	③
父親、祖父母、親戚等も積極的に子育てに参加するように、子育てに対する意識改革を全市民あげて取り組む。	③
市内各学校の同窓会を活用し、恩師を巻き込んだ婚活をしてはどうか。	④
空き家対策として、子ども2人以上の人には、安く斡旋してはどうか。	④
子育て支援に努力する。	②
この戦略を進めると、人口が維持できるということだが、出生率を上げるための具体的な取組がないと思う。女性が京都で働き、子どもを産んで、育てたいと思う具体的な取組を示してほしい。	③

人口減少に歯止めをかけるには、子育て世代の環境を良くすること。	③
小規模保育ではなく、認可保育園を増設する。	③
子ども医療費無料化などを採り入れてほしい。	④
人口減少に歯止めをかけるため、就労、結婚、出産、子育ての希望の実現に取り組むことが大切である。	②
家庭での家事、子育て、仕事など親への支援が大切である。	③
歯医者での無料化を3歳からにしてほしい。	④
暴風警報が発令されると、保育園や小学校が休みになるので、保護者も自動的に帰れるようにしてほしい。	④
夜勤がある保護者もいるので、夜勤時に対応できる保育園をつくってほしい。	④
インフルエンザなどの予防接種を小学生までは無料にしてほしい。	④
母親だけでなく、父親ももっと育児に参加できる就業形態に。	③
短時間勤務の取得や、子どもが病気になった時に休みやすい環境づくり。	③
DV 避難母子については、離婚成立まで、児童扶養手当を受給することができないので、DV 避難母子であることが、明確であれば、児童扶養手当を支給する。(DV 避難母子が、貧困等に陥らないようにサポートするべき。)	④
少子化対策及び子育て支援の一環として、ひとり親家庭への婚活支援やステップファミリーの応援をし、子ども達の結婚や家庭に対し、前向きなイメージを持てるようにする。	①
私の周囲には結婚しても、出産をためらう人がおり、子育てに不安が多いようである。子どもがある程度大きくなると市外へ引っ越す傾向があるのではないか。	④
中学も全員給食制にしてほしい。	④
子どもが外でのびのび遊べるように、ボール遊びができ、楽しい遊具のある公園が欲しい。	④
子どもの医療費を少なく(小学生まで医療費無料など)してほしい。	④
保育料金を値下げしてほしい。	④
保護者が子どもを連れて集まれる場所が少ない。	④
公営住宅を改修することで、保育園の入所希望の偏りを改善できる。	④
観光で世界一だけでなく、「子育ても世界一な街づくり」を目指してほしい。	③
保育所や託児施設は、公立・私立ともに入所条件を改善して、長期でも短期でも預けやすくしてほしい。	④
育児中で、日々、育児サポートや児童館などに助けられているので、さらに京都市としてバックアップしてもらいたい。	③
妊婦タクシーを充実してほしい。	④
公共交通での妊婦や幼児連れが大事に見守られる雰囲気づくりをしてほしい。	③
子育て世帯の税金面での優遇をしてはどうか。	④
社員が育児参加に時間を割くことに対して、会社側へも何らかの補助体制やインセンティブを作ってはどうか。	③
育児補助、手当、託児の充実など、女性が仕事を続けられる環境づくり	③
保育所つきの会社があれば、女性も働きながら子育てできるほか、保育士の仕事も増える。	③
京都市は他都市よりも税金が高く、子どもの医療費もかかるイメージが浸透しており、それが理由で、滋賀県などに住む人もいます。	④
子どもの医療費は、無料でなくても、現状のように安価であれば問題ないと思う。	②
市の子育てへの取組が、市民や他都市の住民から見ても、素晴らしいと思える街になってほしい。	①
子どもを預け、世話をしてもらえ近所づきあいがあれば、若い人も安心して子どもを生み、共働きできる。	③
子どもを安心して生み育てられるためには、医療費や学費など子どもに係るお金の補助等が充実していることが大事だと思う。	③
子育てしている人が安心して働くためには、安心して預けられる保育園が必要である。	③
子育てするには、非正規ではなく正規の仕事で、安心して産休・育休が取れ、働けることが必要	③

市内から山間部に引っ越したが、子どもも自然に触れ、農作業などで地域の人と関わるなど、親以外の大人に見守られ育っている。このような環境で子育てする世帯が増えたらいいと思う。	③
人口減少には、何と言っても子育て世帯への支援が一番の対応策だと思う。	③
人口の将来展望の一番に「京都で子供を生み・育てたい」という思いを高めることを挙げているが、その条件作りが希薄。具体的な項目だけでも挙げる必要がある。	④
「子育て・教育環境日本一」の具体的内容について記載が必要。	③
「学校運営協議会」について、これまでの実績の評価を記載してほしい。また、「設置校拡大」ではなく、「全小中学校(中学校も?)」と標記しなければ、市域の均衡のとれた地域コミュニティの活性化にはつながらないと考える。	①
家庭教育(勉学ではなくしつけ)の重要性について触れるべきであり、それに対する親学習が必要。	④
子供の時期から家事等に関する学校教育の充実と家庭での「お手伝い(実地)」の必要性。	④
働く人たちが、人間らしく豊かで自然に暮らせる様な柔軟性のある就労の仕組みの再構築と提案がほしい。	③
働く人たちに意識改革を促せる様な広報活動等を進めて、京都が安心して幸せに暮らせる街になることを切に願う。	③
「子育て・教育環境日本一」の実現において、2にある「医療費負担軽減」は良いことだが、子どもが病気になった時に対応する病児保育が少ない。非常時に対応しやすい都市(街)＝住みやすい、子育てがしやすい。という考えに繋がると考える。	③
専業主婦の配偶者控除が厳しくなっているように感じるので、専業主婦に対しても控除をきちんとし、生活しやすい環境にしてほしい。	④
婚活支援が書かれているが、婚活事業は数多くあるので、行政が取り組む必要性を感じない。	④
婚活支援など出会いを支援するより、既に出会っている人が次のステップに進めるように支援すべき。	③
結婚資金や新居などに費用がかかるからと結婚に踏み出せない方もいるだろうから、市内に在住又は新居が市内になる場合に補助をしてはどうか。	③
学生や一人暮らし用の物件は多種多様にあるが、若いカップルやファミリー向けのちょうど良い(費用・広さ・交通の便)物件が少ないと思うので、住宅面での支援があるといいのではないかな。	③
少子化については晩婚化の影響もあるかもしれないが、出産・子育ての費用が貯まるまで子どもを控えていることによる高齢化も一因だと思うので、住宅支援や貯蓄・家計のセミナー、出産・子育てに関するセミナー等があれば良いのではないかな。	④
基本目標①の成果目標が、「保育所の待機児童ゼロの継続」のみでは、消極的に受け止められかねないので、その他の目標も掲げるよう検討してもらいたい。	③
出産時における支援給付金制度の構築について提言する。行政が企業へ福利厚生の一環で出産時における支援給付金制度について、導入するよう勧奨する。例えば、1歳になるまで第1子については、月額5,000円、第2子は月額7,000円、第3子以降は月額10,000円を支給するなど、また、行政としては京都市内で使える商品券を出産祝い金として支給するよう提言する。	④
第3子における保育料無料化については、すでに京都府が導入していることから、京都市は第2子について、半額を減免する制度を導入するよう検討いただきたい。	④
出産時における配偶者休暇制度導入企業に対して、京都市が表彰する制度を導入し、ホームページで公表し、同制度の普及を促すよう検討いただきたい。	③
育児休暇の延長制度導入企業に対して、京都市が表彰する制度を導入し、ホームページで公表し、同制度の普及を促すよう検討いただきたい。	③
時間外労働・休日労働免除の延長制度導入企業に対して、京都市が表彰する制度を導入し、ホームページで公表し、同制度の普及を促すよう検討いただきたい。	③
ワークライフバランスの推進として、月に1日、生命に係る業種や緊急性に係る業種を除く全業種(24時間営業含む)に対して、5時退社条例を制定するよう検討いただきたい。その当日、観光客については、静かな京都を体験いただく。	④
リターンジョブ制度、出産時における配偶者休暇制度、育児休暇の延長制度、時間外労働・休日労働免除の延長制度、月1日の5時退社を導入している企業について、市長が認定し、行政主導のもと、産学公連携で、認定企業がセミナー開催などを行って普及活動に努める。	④
こどもみらい館と連携した「子育て世代包括支援センター」について、廃校を活用して新設し、妊娠・子育ての相談、保育園・幼稚園入園前の親子の交流拠点、一時保育の実施、放課後や休日の子どもの居場所づくり、小中高生への学習場所としての開放、高齢者と若い世代の交流の場とするなど、子育て支援の充実を図る。	④

若い世代へのライフデザイン形成に対する教育について、制度だけでなく、結婚したい若者を増やし、20歳代で出産する環境・風土作り、ライフデザイン形成のため、早い時期から教育を行う。行政主導により産学公連携で、小中高生や大学生に対して、ライフデザイン形成のインターンシップ制度を導入する。また、行政主導で、65歳以上の有識者や教育者、認定された街のおせっかいおじさん・おばさんなどのネットワークを構築し、恋愛観・結婚観・人間関係などについて、大学や企業の若い世代に対する出前講義など、あらゆる相談に乗れる体制をつくる。若い世代が結婚し、家族で一つになることが幸せであるとの見本を見せることができるような京都市に住む大人一人一人が「こころの創生」を実行する。	④
婚活に対する総合的な支援として、京都市でも婚活事業が行われているが、態勢作りのため人材派遣会社、イベント会社、旅行会社など民間活力を利用する。婚活事業の対象者をかかえる企業同士がネットワークを作り、会場や場所の提供を行う飲食業との連携を行う。業種別、年代別、テナントビル別の婚活事業を立ち上げ、出会いの場を提供し、結婚が決まったカップルには、行政から「お祝金」として助成金支援を行う。	④
近畿2府4県との連携事業で、企業や公的機関の未婚の20歳以上30歳未満の若者(男女とも500名ずつ)について、大型客船による企業間海外研修(1~2週間)を実施する。	④
マンションにプレイロット(幼児公園)などがあれば、地域の子育て支援に利用するなどの、マンションと地域とのコミュニティ形成に力を注ぐことにより、安心して住める街づくりをアピールする。	④

国内外から訪れ、学び、住み、交流する人の流れをつくることに関するもの

意見内容	対応
京都市内への移住促進での人口増加を図る場合、京都は住みにくいと言う、他府県民の中傷を払拭しなければならない。東日本大災害のおりも避難地として京都はあまり選ばれなかった見たいだが、まず敷居が高い、物価が高い、住民税が高い、近所付き合いが難しい暑さ寒さが厳しいとかetcの抽象的な悪いイメージが多すぎるのではないかと、京都の自然災害に対する安全性は日本一であることは間違いない。	③
市民が一丸となり移住者をよそ者と捉える事なく温かく受け入れる事が必要ではないか。そして人口を衰退させない事が街の発展につながる。	③
「大学のまち京都」というのかもしれないが、大学生に還元される事業が少なく感じる。	④
名所が多ければ、観光シーズンでにぎわうが、商売をしている人以外の住民にはあまり喜ばれない。	①
イベントばかりがあるのは考えようである。	④
もっと生活しやすい京都になって、そのうわさが他府県に広がっていけば嬉しい。	①
「学生のまち京都」として、市と学生が協力し、事業を行っていくのであれば、ぜひ参加したい。	②
現在、大学生で、京都市に住んでいるが、特に地域の方とのつながりが無い。回覧板とか地域の情報を学生までに回すなど、学生と地域のつながりを強くする施策をしてはどうか。	③
移住希望者の本市への転入を促進するとあるが、そもそも移住希望者の内訳を年代別などで示してはどうか。	④
観光都市京都として、子どもも大人も楽しめる都市になっていけばと思う。	③
市内各所には有名な場所もあり、その地域が個ではなく、連携していけばいいと思う。	③
大型国際会議が開催できる会場を建設し、MICE誘致⇒外国人の更なる入浴による宿泊客の増加	④
市南部にも大型ホテルを建設してはどうか。	④
観光産業で生き残るために、かつての街並みを今後の100年で再生させ、海外からの観光客を継続的に増大させる施策の優先順位を明確にする。	③
観光優先地域のゾーニング等を行い、そのためのロードマップを作成してはどうか。(守るべき義務があることを共通認識してもらう。)	④
小中学校、高校、大学において、観光都市京都の知識を深めるためのカリキュラムを設け、今後の京都市を共通認識できる教育を毎年継続して実施していく。	③
人口減少の中で、拡大する観光ビジネスの雇用を確保するため、大学生の通訳バイト基金を作り、賃金補助を行い、成功体験から就職につながる方を講じる。	④
大学で西陣織等を利用した新しい商品開発活動を奨励し、今後の観光活動のポイントにしてはどうか。(その商品を購入するために京都を訪れたいくなる)	④
鴨川に観光船を走らせることができれば、より観光の街になる。	④
観光客がたくさん来られるのは良いことだと思うが、市民が、桜や紅葉などのシーズンに行きたいと思っても避けてしまうので、京都市民DAYとかあればいいと思う。	④

観光名所も分散していて、その移動に費やす時間も多いため、観光面での路線バスの充実だけでなく、移動を楽しめる仕掛け(サイネージ付バスやオープントップの2階建てバスなど)をつくって、観光客を誘致して欲しい。	③
市内の交通渋滞緩和のため、京都南インター付近に大型駐車場を設置し、観光路線バスの発着場として、マイカーの市内流入と駐車場問題を解決してもらいたい。	④
深夜も離発着がある関西国際空港とのアクセスを改善する必要がある。	④
錦市場には多くの観光客が訪れているので、食に関連したミュージアム施設があればよいのではないか。	④
MICE 推進するためにも、大型会議場を市内に建設する。	④
助成金制度などを設け、空き家活用につなげる。	③
多言語での観光地説明など、外国の方に優しい環境整備をすすめてはどうか。	③
観光地直行便を増発してはどうか。	④
市民税が高く、滋賀県のほうが土地も安く、大きな家を購入できるような場合は、今後も滋賀県に出て行ってしまわないだろうか。	④
観光関連の案内や宣伝など多くあるものの、統制がなく、外部から訪れる人には、よくわからない。ポータルを一本化し、誰でも簡単にわかるコンテンツが必要ではないか。	④
外国人に対して、観光関連のポータルを統一すれば、リピーターが増加するのではないか。	③
京都観光のコンテンツを作成する人材を育てる必要がある。	④
観光地域と住居地域を明確に分けることで、住民と観光客のトラブルを防いではどうか。	④
観光客にとって、地下鉄・バスの乗り放題の乗車券が高く感じる。ICカードを用いて、1日、3日、7日間等の乗車券を提供してはどうか。	④
地下鉄やバス停などで、Wi-Fi が使えるのは観光客にとって非常に便利になったと思う。	②
外国人観光客にやさしい、利用しやすい地下鉄にするため、車内の扉横などの見やすいところにも路線図等をつけるのが良い。	④
複数の路線が乗り入れる京都駅、特にその地下はわかりにくい。どの路線の京都駅なのかわかりやすい工夫をするべき。	④
市、寺社仏閣などの観光地が協力し、KYOTOPASS などのお得なチケットを販売していくのはどうか。	④
外国人観光客を対象に、自分たちで簡単にホテル等を検索できるタッチパネルを京都駅の改札付近に置いてはどうか。	④
四条通の地下道をサイネージ・マッピングによる演出などで、人を誘導し、賑わいを出せないか。	④
家賃や公共交通の運賃の高さ、バイク・駐輪場の不足など、学生のまちと言いつつ、学生には住みにくい。	④
大学生が、卒業後に京都を離れないような施策をする。	③
京都がモチーフとなった小説等の舞台をめぐるスタンプラリーとかがあれば楽しいのではないか。	④
京都の街は自転車に適したまち。自転車関連のイベントで交流促進してもらいたい。	④
市バス・地下鉄だけでなく、他の観光事業者とも連携して、外国人旅行者にわかりやすいサービスを充実させていけば良いと思う。	③
外国人観光客から道を聞かれることが多くなった。学校での英語教育も大事だが、地域の人たちに英語を学んでもらってはどうか。外国人観光客が市民の誰に聞いても、簡単な英語で案内を受けられれば、安心して観光してもらえる。	④
外国人観光客やバックパッカーは、昔からあるホテルや旅館だけでなく、町家ゲストハウスや新たに進出してきたホテルを利用されていることも多い。でも、そういった宿泊施設を知らない市民が多いので、いざ、場所を聞かれても答えられない。おもてなしのために、市民も知っておく必要があるのではないか。	③
移住するには、仕事があるかが大きく関わってくる。そもそも京都市内に職場となる事業所が足りないのではないか？	③
移住施策を進めるには、京都市内に住居を構えてもらえるかどうか。今のままでは、湖西線沿いなどの地価の低いところに家を構えるのではないか。	④
京都市への移住を考えるのであれば、京都市からの通勤圏を考えて、雇用が確保されていることも大切ではないか。	③

外国人を含めた観光客の今後の増加について、宿泊施設もそうだが、受け入れる体制がどこまで整っているのかが不安。	③
観光客が増えることに対する、市民から不安や不満もある。観光客の増加が、しっかりと市民に還元されるようにならなければならないし、それが、市民にも伝わって、理解されないといけない。	①
京都に憧れを持つ他地域の人は多い。京都市はそのブランド力をいかしきれていない。	③
現在、子育て中。今度、家の購入を検討するとしたら、実際には市内に住みたいが、家の広さや価格などを考慮すると滋賀県を視野に入れざるを得ない。	④
市内には、いくつかの公営住宅の団地があるが、どれも老朽化していて、若い世代にとっては魅力的でない。リフォームして綺麗になれば、若い世代も入居したいと思うのではないか。	③
市バスは観光客の重要な移動手段であるが、単なる移動手段とするだけでなく、観光地間の移動の合間に楽しめる仕組みがあればいいのではないか。	③
オープンデッカーとかが走っていれば、もっと観光を楽しんでもらえないか。	④
LCC が普及し、外国人観光客は、深夜にも関空に到着される。その人たちが、すぐに京都に来れるように関空から京都へのアクセスを良くするべき。	④
京都駅周辺のコーヒESHOPでは、外国人観光客が店員さんに観光スポットへの行き方等を尋ねている。店員さんも、簡単な英語での受け答えができるようである。外国人観光客が気軽に尋ねられる店が増えればいい。	③
外国人観光客への観光案内に積極的、協力的な店を、「子ども 110 番」のように「外国人観光客 110 番」として、周知すれば、観光客も安心できるのでは。	③
高度人材交流拠点の形成には、大企業もしっかりと取り込んではどうか。	③
市民と観光客が一緒に過ごせるコミュニティスペースの整備	④
京都国際ホテル跡地にマンション建設をする利点、必要性がわからない。京都国際ホテル跡地は、大規模会議場や宿泊施設付きの異文化・国際交流ができる施設にするべき。	④
京都に移住したいと考える人は多い。	③
市内の廃校をリノベーションして、留学生の宿舎にしてほしい。	④
留学生が安心安全に学ぶコミュニティを地域の人々が支えていくプロジェクトをしてはどうか。	③
市内の案内板を多言語表記してはどうか。	③
観光地のトイレをもっときれいにしてはどうか。	③
大規模な会議ができる場の確保として、具体的な構想はあるのか。	④
今後を見据えると、観光客の収容力には懸念を感じるが、周辺地域をもっと活用してはどうか。	④
北陸新幹線やリニア中央新幹線については、各地方の意見も聞いていくべき。	④
京都は魅力的な都市であるが、転入者に対して、排他的なイメージを持たれている。そういったイメージを払しょくする情報発信をしてはどうか。	③
観光客のマナーの悪さに困っている。市民だけでなく、観光客に向けた教育もしていただきたい。	③
京都以外の方が京都で集えるコミュニティを作ってもらいたい。	③
将来の人口減少に備えて、移民の受け入れを行うのであれば、留学生の情報をデータベースとして活用できないか。	④
京都は観光都市として、十分活性化していると思うが、どのような点で更なる活性化を試みようとしているのか。	④
2年連続で世界一になったが、世界の評価をどのように市政に反映していくのか。	④
移住者の受入れ、町家への居住の補助、シェアハウス等へのサポートがあればよい。	③
定住促進につながるような空き家補助の制度化	③
高等教育の無償化により、若年層の増加(特に海外から)につながり、より国際化するのではないか。	④
市内にある空き家を京都市が仲介することで、学生や留学生の利用を促進できるのではないか。	③
国際都市になるためには、市民として何に取り組むべきなのか。(英語などの語学力の向上?)	③
ただ学生が集まるのではなく、レベルの高い留学生が集まってくるための取組が必要ではないか。	③
リニア中央新幹線や北陸新幹線について、京都市はどのようにかंगाえているのか。	④
外から入っていく方だけでなく、住んでいる方にも理解され、京都に住んで良かった、住み続けたいと思えるまちにしてほしい。	③

訪日外国人向けの事業が少ないことに驚いた。訪日外国人が京都を訪れて移住を決めるという話も聞くので、より外国人が移住しやすいシステムがあるといいのではないかな。	④
移住者に京都の良いところ、悪い(改善して欲しい)ところをヒアリングし、課題解決の糸口にするのがいいのではないかな。	①
京都に住みたくなる企画はもちろん、継続的に住んでもらえるように、今住んでいる人に向けてのフォローをもう少し厚くしてほしい。	③
「住み続けることに対しての特典」みたいなものがあればと思う。	④
大阪、神戸にも住んでいたが、京都が一番住みやすい。京都が住みやすい街であることを、もっと対外的にアピールすればいいと思う。	③
移住支援やインバウンド増加よりも、もともと住んでいる人が支援される施策と目標設定をお願いする。	③
空き家対策は、共感できるので、非常に期待している。	②
京都に移住してみて、コンパクトで住みやすい街と感じる。	②
私自身が移住者であるので、京都への移住・定住の支援に関心がある。市民等取組提案の「移住希望者向け就職・住宅情報の発信とマッチング」はわかりやすい情報があれば良いと思う。	③
市民等取組提案の「移住希望者向け就職・住宅情報の発信とマッチング」は、学生へ向けての情報としても必要だと思う。	④
京都の仕事や職業図鑑(冊子やweb)があれば便利だと思う。	④
観光都市なのに、住んでいる人が京都のことを知らない、案内できない。その点から改善が必要ではないかな。	③
京都府外に住んでいると、京都は様々な資源があり、うらやましいと思う。	①
実家のある田舎を守るために、そちらの地域に出かけることも多く、市内の町内会参加が難しい。田舎と市内の二重生活をしている者にとって、京都市の情報が届かないのは残念。	④
京都を訪れる人に、京都人は何を伝授すればよいかを考える必要がある。	④
二重生活によって、納税をする場所を自分で決められるという制度にすれば、東京の一人勝ちを解消できるのではないかな。	④
二重生活を促すうえで、リニアを京都にと願っている。	④
大学生が卒業後も、京都に定住してくれるようになれば、子育て世代、労働人口の増加につながると思う。	③
将来を見据えると、リニアが京都に停車する必要がある。	④
移住や交流人口の増加を考える必要があるが、京都は観光を中心とした交流人口の増加を目指すのが好ましい。	③
観光都市としての「おもてなしの心」を全市民が共有できるような広報と教育の取組を構築する必要がある。	③
京都ゆかりの人物や、京ことば、着付けなどを小中学校で授業化してはどうか。	③
英語、韓国語、中国語、アラビア語で表記された案内板を設置してはどうか。	④
観光客数の増加を維持することで、活力と経済規模を拡大することで、新たな文化創造や伝統産業の継承への投資につなげることを目指すべきである。	①
毎年 3,000 人の転入超過を維持するという人口ビジョンは、達成することが困難だと思う。	④
公営住宅の多数の団地があるものの、空き家が多くあると感じており、改修工事を積極的にすれば、若い入居者も増え、高齢者中心の団地も活性化するのではないかな。	③
若い世代に住んでもらうためには、住宅問題だけでなく、雇用や交通の利便性、公園などの整備も必要である。	①
世界遺産の寺社や景勝地近くの道路の舗装の隙間から雑草が生えており、世界の人に見てもらうには恥ずかしい。市民一人一人が草を抜く活動を行えば、景色も良くなるだけでなく、その姿そのものが、「おもてなしの心」として、海外の方に伝わる。	④
空き家のままにしておくと、所有者の負担増(固定資産税の増額等)になるようすれば、安価な家賃での貸し出しも増え、学生や若者の居住が増えるのではないかな。	④
若い家族が快適に暮らせるような、教育や住宅の環境をつくるべき。	③
京都の歴史・文化を生かし、また大学が集まる京都ならではの文化性・国際性の高い教育のバックグラウンドやサポート体制をつくってはどうか。	③

人口を増やすためにも、移住及び移民政策を緩和してはどうか。	④
移住者や移民の福祉を改善したほうがよいと思う。	④
第二の人生を京都で暮らしてもらえるように、官民で力を併せて住宅等をサポートしてはどうか。	③
個人経営の店舗が多く、楽しい生活を送れている。その魅力をもっと発信してはどうか。	③
京都市在住年数に応じて、住民税の軽減などの特典を設けてはどうか。	④
近年不法投棄が増えており、街が汚れていけば、住みたくなくなる人が増える。街を市民一人一人が綺麗にする心を育てなければいけないと思う。	④
地元プロスポーツチームへのサポート(試合日は完全休日にするなど)	④
市中心部では、道路案内標識も多く設置されているが、山間部への道路案内が少なく、観光やおもてなしの内容を盛り込んで、事業化してもらいたい。	④
現在住んでいるところは60歳以上が多数なので、交流の場が増えることには賛同する。	②
少子高齢化等が進む地域における「若者移住モデル事業」に期待する。	②
過疎地域での空き家対策や取組支援をお願いしたい。	③
人口減少に対応するため、移住希望者を募って、空き家活用を推進して欲しい。	③
子育て世帯の方が、一世帯でも移住定住できるよう空き家対策に協力していきたい。	②
私の住んでいる山間地域では、イベント等で地域をアピールしてきたこともあり、若い世帯が2組、引越してこられた。他にも移住希望者がいるが、空き家が住めるような状態ではないので、空き家リフォームに補助してもらえないか。	③
空き家になっている建物の再生及び建て替えを誘導していく政策が必要。既存市街地の暮らしと生命と町を守るという観点から、空き家対策、老人福祉対策、防災対策、税制、耐震改修の関連性を見据え、各対策の横断的な方針の構築を掲げてほしい。	④
空き家について、各業者が持っている情報を求める人に伝達できる「市街地再生センター」を置いて集約的に外部に発信する基地の設置。	④
若手芸術家の集積(例:マンガ家のトキワ荘)に関して民間施設利用への補助、地域(特区)創生→芸大移転に伴う京都駅北側～五条界限(仏教関係やきもの関係の混在地域)。	④
移住に限らず、例えば東京圏と京都市内の2地域での居住促進にも取り組んではどうか。	①
過去20年間の転出入の長期的傾向では、転出超過が続いてきた。転入超過はここ数年の状況であり、転入超過の強調は、市民の危機意識を後退させるのではないかと危惧されるため、あえて厳しい表現とした方が、市民の意識改革という点では望ましい。	④
「東京在住者の今後の移住に関する意識調査」について、UIJターンや2地域居住の希望有無では、「行ってみたい」とする回答が3割以下であり、この調査が示す転出希望先は「東京都以外の近郊」ではないかと推察される。ついては、京都の魅力をより強力に発信する必要がある。	③
北陸新幹線・リニア新幹線の京都市誘致は重要課題であり、検討いただきたい。	④
金融機関はすでに幅広い商品提供を行っていることから、経済的支援における融資については、現在ある制度融資、ならびに金融機関の商品で十分対応可能である。特に住宅ローンについては非常に低金利であり、住宅ローン減税制度を利用すれば利息はほとんどかからないなど優遇がある。対象者へ幅広く周知するためにも、行政と金融機関が連携し、発信力を高めていただくようお願いする。	④
京都市の多くの空き家が住宅ローン減税制度の非対象となっていることが想定される。若い世代の住宅購入や空き家対策から見ても、市内における京都の空き家取得の住宅ローン減税制度の対象住宅条件緩和を国に提言いただきたい。	④
海外からの交流人口を滞在人口とするため、また、移住・定住支援について、市内の空き家約11万軒の利活用として行政主導で一括借り上げを行う。一括借り上げ物件は物件価値があがること、また、固定資産税を免除することで賃貸料は支払わない。また、産観ファンドを立ち上げ、リフォーム資金を拠出、賃貸収入を管理費用とファンドへの返済に回す。在留資格を持つ全て外国人を利用者とし、低価格の家賃を導入して借りやすくすることで、滞在人口を増やし、京都を万国の街とする。国内からの流入人口についても準じて実施する。	④
歴史・史跡・伝統・文化などあらゆる京都の魅力について詳細に調査し、GPSを用いて、その場に行けばナビに表れるような仕組み作りやインターネットサイトのネットワーク化等を行うことによる発信。	④
大学生ボランティアサークルの活動の輪を広げるため、行政区における各種まつりをはじめ、各種行事に参画する。また、社会福祉協議会や児童館、タイムケア事業等をサポートし、子ども、高齢者、障害者との交流の機会を持ち、理解を深めあう。	④

空き家または空き部屋を「シェアハウス」として、また、かつての「下宿寮」として活用できる機能を強化し、若い人たちが京の街に生きつき、活動を通じて培ったその志を紡ぎ、地域の活性化につなげてほしい。	④
京都市外からの転入者を増やす(京都ファンの全国開拓)。京都に関心がある人材を快く迎え入れる。かつてに比べて開放化したとはいえ、京都の人達の排他観は根強いと思われる。特別の文化人というよりも、関心を持つ人を受け入れることは都市格の向上にもつながる。これは、京都のエゴではなく、文化首都の発展のためである。	③

経済の活性化、安定した雇用の創出に関するもの

意見内容	対応
積極的な企業誘致による人口増も欠かせない。	③
障害のある人が、作業所の安い賃金ではなく、きちんと時給制で働けるようにしてほしい。	①
京都駅以北の産業が盛んになるような施策を望む。(例えば、繊維産業)	③
介護事業への支援をすることで、働く人の待遇改善を図る。	④
空き家を活用したベンチャービジネスで雇用促進につなげてはどうか。	④
空き家対策として、移住者向け、起業者向け、飲食店向けに施策をする以外に、IT企業のサテライトオフィスを誘引できないか。	④
京都市が企業をタイアップしてベンチャー企業を設立し、空き家の活性化をしてはどうか。(託児所など)	④
京都の会社が京都の大学から人材を採用する。そのためには、京都市、企業、大学・学校が連携し、学生時代から人材を育成する。	③
学生が多く転入しているとしても、卒業後には京都を離れてしまう。京都に留まってもらうためには、雇用がなければならない。	③
京都に進出したい企業もあると思うが、街中にあるオフィスビルは手狭なうえ、老朽化している。このまま建て替え等が進まないようでは、オフィスビルも町家と同じようになるのではないか。	④
産官学のモチベーションを上げるには、京都南部の精密工業企業との融合はどうするのか。中小企業、伝統工芸との融合はどうするのか	④
四条通の地下道で、マルシェやマーケットなど、京都ブランドをPRする場を設けてはどうか。	④
「生きがい」「働きがい」と重ね合わせた就職活動をしてもらうためにも、学生、生徒、児童が就労観を養う機会を増やす。	③
超過勤務の増加の問題を、仕事のシェアという形で、正規雇用の拡大につなげることができないか。	④
定住し、こころ豊かな生活をするためには、生活の糧となり、かつ、やりがいのある自分に合った仕事に就けることが大切。	③
障害のある子どもたちが、仕事をしながらいつまでも住み続けられる京都を目指してほしい。	①
障害者がやりがいのある仕事に就き、自立した生活を送れることは、京都の魅力になる。障害者の雇用や職場での定着支援も掲載すべきだと思う。	①
現在、京都で働いている方の雇用環境を改善する必要がある。	③
働く人の給料が安すぎる状況を改善すべきではないか。	③
正規雇用者がどんどん減っている状況を改善すべきではないか。	③
先端技術産業を誘致して、地方活性化を進めてもらいたい。	③
しごとに関して、試みてみようとしていることが少ないように感じる。	④
雇用施策が一番大事だと思う。既婚率、出生率上昇のためには、未婚の若年者の年収増加を図るべきである。	③
若年者の年収増加のためには、正規雇用の拡大が重要である。	③
京都出身でない学生に卒業後も定住してもらうためには、安定した雇用と安価な住居が必要である。	③
障害のある人が「働く」ことに関して、施策の追加を検討して欲しい。	①
京都創生の一番は若い人々が収入等で安定した環境を作ることである。京都には、優れた中小企業が多く、若い人々が希望を持ってい仕事に意欲を持ち、結婚願望につながると思う。	③
京都の企業の9割は中小・零細企業であることから、より幅広い企業が対象となり得る企業支援施策の実施を願う。グローバルニッチトップ、先進企業の更なる先鋭化と並行して、「底上げ」的支援施策の充実も図っていただきたい。	③

リターンジョブ制度導入企業に対して、京都市が表彰する制度を導入し、ホームページで公表し、同制度の普及を促すよう検討いただきたい。	④
ホテルや宿泊施設、賃貸マンションなど本市の立地政策問題・課題解決のため、金融機関が行っている不動産有効活用によるビジネスマッチングのネットワーク化を図り、連携強化を行うことを提言する。	④
「京都市における産業競争力強化法にもとづく創業支援ネットワーク」の実効性を高めるための連携強化として、創業ネットワーク推進会議の立ち上げや、業種別創業スクールの立ち上げを検討いただきたい。	④
創業者に対する販路拡大・販路拡大のため、市が主導で金融機関等との連携を強化し、バイヤーマッチング、ビジネスマッチング、地財マッチングでの支援を検討いただきたい。	④

心豊かな生き方、暮らし方を大切にする社会づくりに関するもの

意見内容	対応
東京とは違う価値観、京都が打ち出していく価値観を明確に定義する必要があるのではないか。	④
京都は特徴的なものがあるが、他との違いを打ち出せる都市でありながら、京都に住む人が、その違いと共に生活していこうとしないと感じる。日々の生活と京都らしさを組み合わせた、誰もが親しめる京都の価値観を作り出していくのが良い。	③
伝統文化や京都の魅力発信も大切である。	③
地域の行事や思いを次代の子どもたちへつないでいけるよう、今の大人たちがしっかりと京都やその土地の事を守っていけるような意識を持てるよう、働きかけることが大事	③
「京都ブランド」をブランドだけに終わらせず、活性化させよう、古き良きものを守り伝えていこうという取組はとても良いことだと思う。	②
昔からある町家の利用を活用していくのはいいことだと思う。	②
京都ならではの衣・食・言葉などが薄れてきているため、授業等に採り入れてはどうか。	③
心を病む人が多くなっている今日、「礼に始まり礼に終わる」武士道の心得が必要ではないか。	③
京都が文化芸術の中心であるなら、日本人の心「武士道」も必要かと思う。そのために京都武道館の建設をお願いする。	④
京都にしかない文化を通じて、子どもからお年寄りまで幸福になるまちであってほしい。	①
地域の産業を育成するために、京都の日本酒のみを提供する飲食店等に税控除等のインセンティブを与えてはどうか。	④
一般市民にも伝統文化・芸術を低価格で鑑賞しやすい機会を増やすような支援をしてはどうか。	③
寺院、神社、美術館などの拝観・入館料で市民優待があればいいと思う。	④
子どもには、もっと京都のことを知ってほしいので、寺社や歴史的なスポットを訪れる課外授業をたくさん実施する教育プログラムにしてほしい。	③
北部山間地域に伝統産業特区を創設してはどうか。	④
電柱の地下埋設をさらに促進してもらいたい。	③
京都の伝統産業やその製品を発信する拠点を充実させる必要がある。	③
着物や浴衣で歩くまちにするため、公共交通機関や寺社仏閣の割引などの特典を設けてはどうか。	③
鴨川などの市内を流れる川沿いを整備し、より自然と共生した暮らしができるようにしてもらいたい。	④
まちの美観向上や建造物を見やすくするためにも、電柱の撤去を進めてはどうか。	③
日本のこころのふるさととは、具体的にどのようなものを指すのか。	④
学校教育において、日本のこころの理解を深める。	③
企業も、着物産業の振興のため、従業員の制服に着物を導入	④
オフィスビルの外観や、地階を和的なものに更新する。	④
史跡や文化財の案内板を時代ごとの看板にするなどわかりやすいものにする。	④
街並み保存を進めるためにも、現場を知ってもらう。	④
京町家に関心がある人は多い。外国人は、安くて寝られる宿を求める傾向もあることから、バックパッカー向けの宿泊施設に活用してはどうか。	④
建物の高さ制限はすごくいいことだと感じている。	②

看板がなくなり、烏丸通や四条通がすっきりして、気持がよい。	②
今、付いている看板(屋外広告物)が京都らしいものであれば、なお良かったのではないかな。	④
京都らしい看板とするため、市から共通の京都らしい看板を販売してはどうか？	④
海外では、金曜日に早く仕事を終え、美術館でリラクゼーションや感性を高める取組がある。京都市でも、市民が無料で利用できる日を設定してはどうか。	④
芝生を敷くなど、緑を含んだ駐車場の設置を企業に進めてもらう。京都市施設の駐車場も同じようにしてはどうか。	④
京都の文化に対して、市民(低学年層)への教育が弱い。幼い頃から、京都の伝統文化について、日常の会話で出てくるような教育、体験を強化したほうがいい。	③
(寺院の)鐘の音を鳴らすのを復活してください。	④
京都の上辺の魅力ではなく、本当の魅力を発信する必要がある。	③
市内にある町家の活用をする。	③
京都の魅力は、文化の中心として「こころの観光」が発信できる唯一の都市である。	②
「こころの創生」に取り組むに当たっては、京都人もまず勉強する必要がある。	③
京都の景観政策はすごいと思う。	②
京都の伝統である地蔵盆は、子どもと高齢者を結ぶ場である。市からもバックアップをしてもらいたい。	①
京都に文化庁を置くことで、具体的にはどのようなメリットがあるのか。	④
長唄や地唄について、関係者が危機感を持っていると聞いた。京都でも、その普及をよろしく願いたい。	③
「こころの創生」を学生や若者が取り組むことで、経験を積み、京都を知り、おもてなしの本領が発揮されるのではないかな。	③
「こころ」を取り戻せる教育をはじめ、京都から本当の日本人を発信して欲しいと思う。	③
京の地蔵盆は、地域や子どもの教育にとって、大変重要な文化だと思う。	①
地域の伝統的な祭事が、人的、資金的に消えつつある。その点に関して、京都市はどのように考えているのか。	①
すばらしい趣の京町家がどんどん取り壊されていくのはもったいない。京町家の保全・改修を進めるには、規制緩和や税制面での優遇も必要ではないかな。	③
京都独自の景観づくりがより一層進展していくことを期待する。	②
京都にとって伝統産業は必要であり、それを日本全体、海外に発信していくことが大切。	③
本来の個人主義の確立がないままでは、国も地方も創生できない。	④
「こころの創生」とは、市民が自分のことと捉え、おもてなしの心を持つことだと思う。	③
「こころの創生」は、今の教育に欠けている部分であり、将来のためにも、教育に取り込んでいかなければならない。	③
追われてやるのではなく、心に余裕を持ちながらやっていくことも大事である。	④
1200年の歴史と伝統と古典を紐解き、そこにある哲学、生き方、考え方等を京都を訪れる人に対して、さりげなく示す必要がある。	④
全てのやり取りが、機械化され、心情を伝えあうことがなくなっており、このままでは、こころの創生にはなかなか到達しない。	③
学校で行う取組はとても良いと思う。	②
京都の魅力を子どもが感じられるようになれば、京都はもっと盛り上がり、大人になっても京都に住み続けてもらえる。	③
保育園や幼稚園と高齢者(施設)が京都ならではの文化体験を一緒に行うことで、京都の伝統文化の継承につながる。	①
京都は歴史ある街なので、それを生かしたみんなの住みたい街にしてほしい。	①
二条城にバス用の駐車場をつくるのは景観が悪くなる。交通渋滞を招くほか、近くに公園もあるので、子どもたちの危険にもつながる。	④
家庭菜園や玄関前の植栽コンテストにより、街の景観を更によくし、エコに繋げる。コミュニケーションにもつながる。	④

観光や学生、伝統産業など特徴を持たせた区域を設け、個人のエゴを排除するような強制力のある条例を設ければ、徐々に、都市の姿は改善するのではないか。	④
京町家へ安価で宿泊できる体験を企画してはどうか。	④
伝統産業技術後継者育成は、業界のしくみや慣例等を行政がしっかり把握しないと技術面からのみ支援するだけでは不可能。特に室町・西陣関係については、川上と川下の需給ギャップを理解しないと後継者が育たない。	④
分業体制を集積化(きもの団地等)することで、観光資源ともなるような事業展開の支援が必要ではないか。	④
目玉として、東京一極集中の観点からぜひ、政府機関(文化庁や国立文化財機構)の誘致を積極的に進める。金融機関としても応援団となり、協力していく。	②
屋外広告に関わる仕事を「京都の広告景観」という誇りを持ってしている。これまで取り組んだ京都の広告景観をもっとPRし、「これが京都だ」と感じてもらえるような取組が今後されるべきである。	③
大きな仕組みも大事だが、人と人のふれあい、地域の人付き合い、友人関係などこまやかな人間関係は、人の行動に大きな影響を与えるものだと思う。良き人間関係に呼ばれて、京都への定住を決めたという方もいらっしゃるのではないか。「こころ」の部分はそうした意味でも非常に大切な事だと感じる。「こころ」を育むためには、人と人とのつながりづくりをどのようにするか、ということがとても肝心の気がする。	②
学生の間は学生同士のつながりが、仕事につけば職場の関係がそうした関係の多くを占めるのかもしれない。しかし、このごろは薄れる傾向にあるとされる、地域のつながりはやはりとても大切であり、今後見直すべきものの一つであるように感じる。地域の人付き合いはあるエリアの居住者仲間というだけでなく、この頃は市内に住む共通の趣味を持つ仲間や、共通の活動(市民活動など)をする仲間などが、地域活動にも関わることで幅を広げつつある。「こころ」を大切にすることとは、非常に漠然としているが、「かどはき」の伝統のように、地域には行為としてそうした「こころ」が活きている。地域力の低下が心配される昨今、多様な地域活動のあり方も認めていく事で、京都の街の生活に根ざした「こころ」を広く広める事も可能になるような気がする。	③
即効性のある効果を求めるだけでなく、環境を整える事で、創造的で有機的な人のつながりを生む事が大切ではないか。そしてそこには、いわゆるハコものの「拠点」ではなく、人が集まりやすい「場」=(特徴ある)まちを作るという発想をもつことも大切なのだと思う。	④

安心安全で魅力と個性あふれるまちづくりに関するもの

意見内容	対応
京都の人口減少の問題は、住みやすい環境が足りていないからである。寺社が普段の生活に役立つ機会は少なく思うので、もっと身近に役立つもの(商業施設など)の設置を進めていくことが良い。	④
地域コミュニティと行政の連携は今後、重要となる。地域コミュニティを強化することで、「おせっかいを増やす」ことになり、問題解決のきっかけになるのではないか。	③
今も昔も、話を聞いてもらいたい人がなかなか参加してくれない。地域活動も大変なことはしないでおこうという方が多くなってきている。	④
京都市郊外に住んでいると、橋の架け替えや公園整備が、遅れているように感じる。	①
地域コミュニティの再生を行う事で、子育てや長寿のまちづくりが出来ると思う。	③
マンションが増えていく中で、人と人が支え合える活動(町内会に代わる集合体やリーダーの育成等)ができればと考える。	③
今後の高齢化社会の拡大に対応するため、バス・地下鉄の無料化を廃止し、マイナンバー制度で把握できる収入レベルごとの有料パスに変更する。	④
景観を損ねる駐車場の減少につながる固定資産税の強化など、自家用車を持たない街を目指してはどうか。	④
京町家もゲストハウスなどへの活用が目立ってきたが、空き家は増加し、市外の富裕層が別荘や投機目的で購入するようなマンションばかりが増えているようでは、中心部の空洞化は進んでいるのではないか。	④
市電を再び走らせてはどうか。	④
市民の健康増進を推進するため、体育館や公園、広場などのスポーツ施設の充実を図ってはどうか。	③
「まちのシンボルとなる橋の創出」については、景観を重視し、歴史的な価値を損なわないものにしてもらいたい。	③
緑の多い散歩コースがあったり、健康器具などが設置された公園などの憩いの場がもっとあればいいと思う。	①

中心部のバスは乗り慣れていないと難しい。	④
路上喫煙禁止区域を四条通以南、烏丸通以西にも拡大してもらいたい。	④
地下鉄へのアクセスが悪く、バスに頼らざるを得ない。	④
岡崎は文化地域だが、商業施設がない。古い映画や和食のミュージアムなどの観光要素を取り入れた複合大型商業施設をつくってはどうか。	④
友・遊・美化パスポート事業の土曜日開催(誰でも参加しやすい曜日設定)	④
劣化の著しい西京極競技場を充実させ、魅力を高めてほしい。	④
バスの系統番号がわかりづらい	④
自動車、自転車、歩行者の分離とモラル向上を進める	①
エレベーターがない駅も多いので、お年寄りや赤ちゃん連れに優しい駅が増えてほしい。	③
ベビーカーを利用していてもそのまま乗れるバスが増え、出かけるのに助かっている。	②
四条通も歩道が広がり、歩きやすくなった。	②
「世界一安心安全・おもてなしのまち 市民ぐるみ推進運動」をされているが、具体的な活動は何があるのか。	④
木屋町や西院での客引き、呼び込みを禁止するなど、条例の追加徹底により、まちの魅力を高める。	④
京都市として、レンタル自転車や駐輪場などを主要箇所には設けるべき。	①
昔ながらの下宿寮が再生されるのも良いのではないか。	④
水道やガス管等の工事で道路がつぎはぎだらけになる。システム化、各工事の連携で、きれいな道路にしていけないものか。	④
地下鉄の金曜日終電延長やよるバスなど、すごく良いことだと思う。	②
河原町御池から烏丸御池の間にも地下通路があればいい。	④
市バス・地下鉄でのIC 定期的導入など、IC カードの普及を進めるべき。	③
烏丸通など中心部の路上駐車が目立つ。	④
京都市が呼びかけて、企業と連携したボランティア清掃の実施	④
子どもも積極的に参加できる施策がもっとあればいいと思う。	④
転勤で京都に来たが、鉄道網が整っているようで、路線の接続箇所が中途半端に思える。	④
観光地へのマイカー流入抑制をもっと進めるべき。	③
団塊の世代は、地域に根差しつつ、地方創生に貢献できる世代である。	②
四条通の歩道幅をされているが、四条通の地下道が活用されていないのはもったいない。地下道にムービングウォークを設置し、地下と地上で人と車の流れを分けてはどうか。	④
受動喫煙防止対策として、大学周辺での禁煙を条例で定め、健康のまち京都を発信する。	④
地方創生を進めるには、LRT 等の公共交通機関の整備が不可欠である。	④
伝統や習わしがある地域社会の中では、若者の新しい考えが受け入れられにくいのではないか。	④
市民等提案にもあるが、洛西ニュータウンはどのように活性化させるのか。	④
障害を持つ単身者が入れる市営住宅を増やしてほしい。	④
これからは、コミュニティの在り方、その中身が重要となる。特別な時だけつながるのではなく、普段から、地域住民、企業、学校が関わっていく意識が求められる。	③
コンセッション方式のPFI 事業として、LRT とまちづくりを組み合わせ、マイカーに依存しない公共交通機関と自転車によるまちづくりを進めるべきである。	④
市バスの運行など、公共交通機関の改善	③
高齢者の介護をしている人への支援。	④
電車のアクセスの悪さや、バスの混雑、駐輪場の少なさなど、改善がいるのではないか。	③
三世同居が普通だったが、今は高齢者の単身世帯が増え、そうなったのは何が原因なのか。	④
限界集落とあるが、市内の町内会も同じような状況にあるのではないか。	④
健康寿命の延伸に努力する。	②
災害時の避難訓練などは進んできたと思う。	②

原発事故が起きた時に冷静な避難ができるように、市がリーダーシップをとった計画を作成するのがよい。	③
基本目標の達成には「安心安全」が必要。	③
『非核非戦宣言』をすることにより、世界中から京都を訪れたい、学びたい、住みたいという人が増え、注目されるのではないか。	④
保育園や幼稚園と高齢者(施設)の交流を活発にすることで、地域コミュニティの強化につながる。	③
高齢者(施設)が保育園や幼稚園と活発に交流することで、高齢者の生きる楽しみの一つにつながる。	③
自助、共助、公助の取組が必要である。	③
防災について、市民参加で取り組んでいきたい。	③
新規のインフラ整備だけでなく、既存設備の運用方法の見直しで、利便性が増すのではないか。	④
老人ホーム等、介護に関わる環境や施設の充実	④
人口減少を止めるには、住みやすい街づくりが大事	③
神社仏閣など落ち葉掃除に苦勞されているところがある。ボランティアだけでなく、高齢者の仕事づくりとして、行政が支援してはどうか。	④
子ども会などの地域活動、地域コミュニティの活性化で、京都の魅力が広がり、再発見につながる。	③
剪定した枝等の再利用(バークや竹炭等)を行政が行う事で、仕事の場も増え、環境面のアピールになる。	④
山道整備を行い、山歩きを楽しんでいただくことで、健康維持につなげる。	④
50年、100年先の都市の青写真(市街配置図)を作成する。	④
先を見据えると、維持費の増につながることになるので、行政の施設等を建設しないのが良い。	④
京都のこじんまりとした街の特性を生かし、赤ちゃんから若者、高齢者までつながれるコミュニティ、相互サポートできる体制づくりをしてほしい。	④
鴨川や寺社の境内などを生かしたオープンスペースを拡充し、それらをつないで、徒歩や自転車で楽しめるような道づくりをしてはどうか。	④
デパートや大型量販店ばかりで購入するのではなく、地元の商店での購入促進とコミュニティづくり	③
観光について、交通渋滞や宿泊など、表面化していることばかりに気を取られるのではなく、緑地や公共施設の充実を図り、市民生活や個々の暮らしやすさを大切に、一過性でない、真の人集めに取り組むべきである。	④
京都に移住してきたが、道が狭く、歩道が設けられているところも少ないと思う。歩行者が安心して歩ける歩道を増やしてもらいたい。	③
渋滞のない、ゆったりとした道路づくり	④
自転車が安全・快適に走れる道づくり	①
人にやさしくマナーある交通の在り方(アメリカのポートランドのような雰囲気街づくり)	④
四条通の歩道拡幅により、渋滞も起こったが、定着していけば、渋滞も減少し、歩道拡幅のメリットが年々認識されるようになると思う。	②
四条通に続いて計画されている東大路通りの歩道拡幅も合わせて、中心部は「歩くまち京都」としての定着を図る取組や魅力づくりを進め、市外の方にも、歩行者が主人公の特別な街としてアピールしてはどうか。	②
日本有数の観光地であるので、道路整備などを見直し、多くの方がより多くの観光地を回れるようにする。	④
春秋の観光シーズンは、主要道路が渋滞し、公共交通も満員である。公共交通の増便などで、渋滞を少しでも緩和してもらいたい。	③
五条通に高架道路を建設して、市内の渋滞を緩和してはどうか。	④
四条通の歩道拡幅に関して、時間帯を設けて一般車両の通行を制限し、業務用車両やバス等の通行を円滑にしてはどうか。	④
四条通を以前の状態に戻し、休日、祝日の10時から17時などの時間帯を設けて歩行者天国にしてはどうか。	④
山間部は過疎化が進み、子どもの数も激減しているので、空き家の有効活用として、子どものいる家庭に貸し出すことで、児童数の増加、学校の存続を目指したい。	④

山間部の小規模校に市内から小学生が交流に来ることで、その良さを経験してもらい、山間地の子どもが多くの子ともと育ち合えたらいいと思う。	③
北部山間地域の振興で、対象が京都市全体の北部山間地域であるなら、「京北地域を中心とした」と書かず、表題のまま、「北部山間地域」と書くのが良いと思う。	①
山間部に住んでおり、高齢者も多いので、交通が不便だと思う。利用者は少ないかもしれないが、もう少し交通の不便さが解消され、高齢者にとって住みやすい地域になればと願っている。	③
既に自治会を中心とし、学区の長所である自然を生かし取り組んでおり、イベントを通し、幅広い年齢層に定住してもらえようになりたい。	②
山間部に住んでおり、地域が中心となって、定住してもらえように取り組んでいるが、定住してもらうには、道幅を広げる必要があるかと思う。	④
山間部を訪れる人の心を和ませ、京都市の新たな一面を知ってもらいたい。	②
京野菜を栽培し、京のおばんざい料理でおもてなしを広げたい。	②
交通の不便な山間部に住んでいるので、老後の生活に心配があり、安心して暮らせる京都になってほしい。	③
現在住んでいる山間地域で、定住促進、後継者問題、学校の存続の問題に取り組んでいきたい。	②
若い子育て世代に田舎の環境の良さを前面に出し、アピールして発信する。	②
私の住んでいる山間地域でも、子育て世帯に移住してもらえよう、体験宿舎やイベントで頑張っている。	②
世代間の垣根をなくすような住宅施設があればいい。	④
高齢者のパワーを子育てに生かせるような街づくりに期待する。	②
山間部の急傾斜地にある集落では、大雨時には土砂災害が心配である。戦略の中で、安心安全なまちづくりが記載されているが、その中に、急傾斜地で土砂災害指定を受けるところの砂防ダム工事などの対策強化を盛り込んでほしい。	④
過疎化や高齢化が進む中、遠隔地での行政サービスが重要となるので、区役所出張所を上手に活用して、高齢者の見守りや子育て支援等の多機能拠点として活用する内容を戦略に盛り込んでほしい。	④
住んでいる地域でも、定住者の増加、農業活性化、地域の魅力向上・情報発信などに取り組んでいる。	②
安心安全な街づくりには、交通の利便性や道路の整備等、きめ細やかな行政の支援が必要である。	④
マンション居住者への在宅避難の重要性及びその方法等の啓蒙の推進	④
震災発災時の一時避難場所としてのマンションの活用	④
四条烏丸～四条京阪前間を通過する路線を廃止(御池通へ迂回)し、四条境界の巡回バスの増便と乗り継ぎの利便性(運賃の割引を含む)の向上。パークアンドライドの徹底。	④
歩くまち京都としてより安全性を高めるため自動車道の整備と運用の徹底。車道自転車専用レーンの増設と車道自転車専用レーン上に自動車の駐停車を厳禁とする。	④
山科区では大きな道もあるが、狭い道も多い。高齢者や子どもが車とのぎりぎりを歩いている。道路の拡幅は無理にし、道路の再舗装など整備を行ってほしい。	④
公共交通の利用を呼び掛けているにもかかわらず、1時間に1便、2、3時間に1便では、車に乗ることになる。京阪バスの本数を見直してほしい。	④
今後の高齢化の急速な進展を視野に、現在は高齢者として扱われる年齢層を、「生産年齢人口」化できる施策が展開できれば、高齢者の経験・ノウハウをより一層活用できる。そのような課題に取り組む企業へのより一層の支援をお願いする。	④
マンションを地域のコアとして、エントランスや駐車場などを、災害発生時の物資の集積場所としてや、受水槽・高置水槽を水の保管場所として活用するなど、地域災害対策の拠点として、地域自主防災会や自治会と協定を結び、日頃から訓練・会議などを実施するなどして、地域住民のコミュニティ形成に活用する。	④
マンションを地域のコアとして、集会所や空きスペースなどを活用して、高齢者の居場所づくりに使うなど、地域住民のコミュニティ形成に活用する。	④
京都市の自然と文化の融合の特徴は賀茂川(鴨川)にある。賀茂川は平安時代から現代まで、市民と広範に関わっている。また、府外、特に関東の人達にとっての憧れの名所でもあり、現在は堤防も整備されてきており、景観上も、日本遺産、世界遺産の候補にもなりうる。ただ、管理上の府と市の区分が、対外アピールに欠けることになっていないか。景観上や府市民のコミュニティの場として、また、災害対策としてももっと重視して欲しい。	④

<p>広くない道路網の中で、市内外の人達の利便性や快適さを求めるには、思い切った方策を進めなければ、市内はますます混雑化しかねない。例えば、四条通の乗用車進入禁止、基幹道路の一方通行化、市職員の乗用車通勤禁止、ノーマイカーデーの増加、MM(モビリティ・マネジメント)運動を徹底して「歩くまち京都」をさらに進展させ、全国モデルとなろう。</p>	④
<p>自然災害に対する危機管理を市民自らの手で実践する。自然災害を限定的に考えることは問題ではあるが、京都市の特徴として、東南海トラフよりも都市直下型地震(花折断層等)の被害が大きいといわれており、突然に急流となる賀茂川、桂川等の破堤も想定する必要がある。総合戦略では、危機管理について、他の部局の方針に委ねている感がある。</p>	④
<p>地域コミュニティの育成を強化する。地域コミュニティの形態は多様化しているが、やはり地域自治の基幹組織は町内会である。町内会の加入率は京都市のみならず、全国的に低迷状態であり、住みやすい、明るい付き合い、いざという時の助け合いが望まれている中で、町内会の加入率が低迷化しているのは残念である。世相が個人化している中、全市をあげて将来に向かっての相互コミュニケーションの発揚を提起したい。</p>	③
<p>地域特性として、「多様な魅力と個性があり、地域の特色ある～全体として調和のとれた魅力あるまちづくり」とあるが、具体的に地域と行政、地元業者(業界団体)とが協力し、魅力あるまちづくりに取り組むとしていただきたい。実際に、その目的に向かって、京都市と京都府広告美術協同組合の間で協定書を交わしている。</p>	③

その他

意見内容	対応
総合戦略について、幅広い年代が関わるのであれば、もっとわかりやすい資料とした方が良いのではないか。	①
方針、施策について、(行政からの視点だけでなく)個人から見るとどのような姿に変えるのかを示してほしい。(たとえば、若者や若い夫婦は今不安や不満を感じているが、将来はこのように日々を感じ生活できるようになるイメージを目指していますといったこと)文中には“安心して生き、働き、学び、暮らす”、“健やかに生きがいを実感”等の心地よい抽象表現が並んでいますが、真の思いや手触り感が伝わって来ない感じがする。	④
体系ページではその関係づけがわかりにくく、一見バラバラの事業提案について該当する目標や施策に割り当てた感がある。「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」という表題を頂点に、各目標、施策、リーディング事業が、一枚の絵の中で一貫したシナリオとして感じられるようにしてほしい。リーディング事業が本当に各目標、施策の実現をリードできるかよく見てほしい。	④
図や写真などで施策を紹介するなど、見やすい戦略にするのが良いのではないかと。	④
人口減少は国全体の傾向として論じられているが、京都市が進めてきた独自施策により人口減少をきたしていることもあるのではないかとと思う。	④
誰もが住みやすいまちを目指すのであれば、京都市内に住んでいない職員にその理由を聞いてみてはどうか。	④
基本目標、施策、リーディング事業等の一覧を見ると、事業の数が多いのではないかとと思う。事業を進めれば新たな課題も出てくるはずなので、数を減らした方が良いのではないかと。	④
国においてもあまり具体的に定義されていないと思うが、地方創生とは、簡潔には地域活性化なのか。	④
人口減少社会の中、学校教育はどうあるべきなのか。統廃合を進めることが良いのか？	④
地方創生を進めるには、財源や権限を中央から地方に移譲し、各地域が特色を出せるようにしなければいけない。	④
難しい言葉ではなく、端的に伝わるような表現が必要。	①
イラストや写真を使い、ビジュアルとして興味がわくものなど、若い世代に伝えるツールがもっとあれば良いと感じた	④
利益をあげている大企業から、相応の税金を徴収すべきではないか。	④
財政難と言いながら、リニア新幹線の誘致に税金を使っているのは、市民の暮らしが立ち行かなくなる。	④
子どもを甘やかすだけでは何にもならない。	④
少子化の中、大学が多ければ、運営が厳しくなり、大学の在り方の選択が迫られると思う。	④
基本理念(4)の「推進を志す」という表現の意図するところがわかりにくい。	④
京プラン実施計画と総合戦略の位置付けと関連性がわかりにくい。両者は同格なのか、それとも総合戦略は実施計画の重点実施計画なのか？	④

これまでから進めてきた「京都創生」の成果に関する記載として、観光客等の外部を意識した内容という印象が強いので、住民から見てどうかという観点も併せて記載すべき。	④
「人口減少への挑戦、東京一極集中是正の観点」と「これまで「京都創生」で取り組んできた観点」が異なるものとして併記されているが、「京都創生の観点から人口減少への挑戦、東京一極集中の是正に向けて取り組んでいる」のであり、両者は同義ではないのか。	④
多様な都市特性が列挙されているが、単なる特性の寄せ集めではなく、「それぞれの特性が「自治の伝統」を通じてシナジー効果を生み出し、伝統と革新の連鎖の中で「京都」が創生されてきた」趣旨を記載できないか。	④
なぜ「自治の伝統」が「人口減少社会の克服、東京一極集中の是正に資する」ことになるのか。「自治の伝統」→「こころの創生」→「人口減少社会～」との流れがわかるような記載とすべき。	④
「自然との優れた調和が形成されている」根拠として、市域の3/4を森林が占めるということだけでは不十分であり、豊かな自然資源がいかに市民生活に溶け込んでいるか、観光資源として十分活用できているかといった観点から内容を充実すべきである。	④
地域特性の箇所、「各区・地域」の表現では行政的な線引きという印象が残り、「自治の精神」を要として打ち出す以上は「各区・地域があってその枠内で人々の絆が形成される」のではなく、「人々の絆があり、その一定のまとまりとして地域が形成されている」との内容が望ましい。	④
地域特性の2段落目の主語がはっきりしない。地域特性の2段落目において、「課題の解決を図り」とあるが、「地域の魅力を高め」に改めるべき。	④
地域特性の2段落目において、「調和のとれた」とあるが、イメージがわきにくいので、「京都としての都市の格を向上させていく」の様な表現に改めるべき。	④
基本理念や地方創生・京都モデルで記載されている「市民等と行政が」の表現について、市民と行政が二項対立的であることを印象付けてしまう。	④
市民等の「等」については、市民ぐるみで取り組んでいこうという中であまりにも雑な表現であり、「国内外を含め、京都を愛するあらゆる主体が」のような表現に改めるべき。	④
「こころの過疎」と「日本のこころの消滅」について、両者はどういう意味なのか不明である。	④
「こころの過疎」と「日本のこころの消滅」について、両者は同義なのか、異なる概念なのか。「日本伝統の美意識、価値観や奥深い精神性が失われる」ことは、「こころの過疎」、「日本のこころの消滅」のどちらなのか。	④
基本理念(3)の3段落目の主語がはっきりしない。	④
「交流人口」をどこか卑下しているような印象を受けるので、「大切な人として重視する」のではなく、「京都をともに創生するパートナー」であるとの認識が必要	④
難しいので、わからない。	①
非常に多岐にわたるので、分野ごとにパブリックコメントをした方がよい。	④
税金を無駄に使用することなく、国にも頼らなくていいように、将来のためにも貯蓄型の財政をしていくのがよい。	④
「リーディング事業」等外来語のような言葉が多すぎる。固有名詞でカタカナがやむを得ないのであれば、備考等で言葉の説明がほしい。市民が見て理解出来るものにしてほしい。	①